

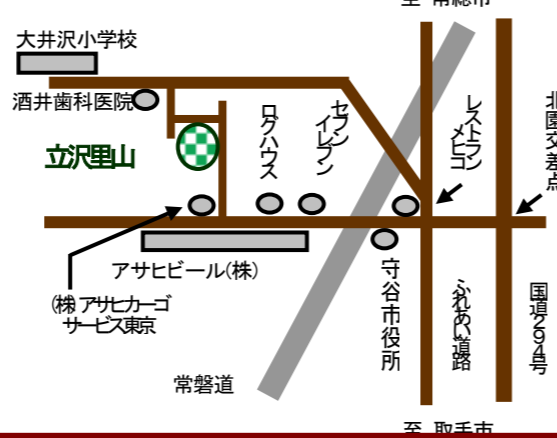
立沢里山

平成21年10月24日
里山新聞 第18号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
問い合わせ先：事務担当
須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
あなたも一箱に楽しみましょう!

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tpl.jp

清野



～目次～

- 1 北守谷夏祭りに出店
- 2 立沢里山「田んぼの稲刈り」
- 3 絵本「田んぼのきもち」
- 4 脱穀作業、今年の収量は？
- 5 池の再生、ハス等の移植
- 6 守谷駅前祭り「夢彩都」

1 北守谷夏祭りに出店

今年も恒例の北守谷夏祭りが8月の22日（土）、23日（日）に行われ、「立沢里山の会」として出店しました。

昨年は大雨に見舞われて大変でしたが、今年は上天気です。

「焼きそば」は例年通り 1,800 食を用意しました。土曜日の午前中に皆慣れた手つきで焼きそばの下ごしらえなど準備作業を行い、午後1時半開場に搬入し、手際よくテント設営などをして、3時開会です。

例年と違うのは、今年から「立沢里山の会」手作りの竹炭の販売を行うことです。

昨年の12月から竹林の切り出し、乾燥、運搬などの準備作業をへて、春に博物館内の炭窯で焼きあげたもので、里山の会による完全な手作り作品です。

販売も昨年の試行経験を生かして、「もみじ葉フウ」の実を素材にして目玉を取り付け「真っ黒クロスク」を作成し、竹炭と組み合わせてアートを作成しました。

その効果があっただけで、竹炭アートは完売しました。

竹炭の平板は袋で詰放題とし、ダンボールで2箱さばけましたが、実はいくら売れたのか不明でした。

おそらく竹炭全体での売り上げは1万数千円程度だと思いますが、来年はもう少し増やして、竹酢液なども本格的に出店してよさそうです。

焼きそばは今年も順調に売れ、人気の底固さを実感しました。



竹炭アート



2 立沢里山「田んぼ」の稲刈り

9月14日（月）は秋晴れに恵まれて、御所ヶ丘、松前台、大井沢の3小学校の5年生による恒例の立沢里山「田んぼ」の稲刈り作業が行われました。5月に田植えして約4ヶ月、今年も順調に育ちました。

午前10時から作業の予定でしたが、各学校とも張り切って予定時間よりかなり早く集合しました。そこで、全体を30分早くスタートすることにし、9時半から挨拶、稲刈りの説明などを行いました。天気はさすがにいい快晴で農作業には絶好の日和です。

説明の後、さっそく田んぼに入って稲刈りです。昨年は天気が悪くて泥だらけでしたが、立沢里山の田んぼはもともとが湿田なので、田んぼによってはかなり足元がぬかるんで大変です。四苦八苦しながらも皆元気に作業が進みます。稲を刈る、束ねる、運ぶなどそれぞれ分担し、途中で交代します。

最初はぎこちなかった作業も慣れてくると、楽しくなってきました。また、皆で工夫して、運搬ルートを考えたり、稲束の運搬も列に並んで手渡しを行うなど、作業効率も上がってきました。皆泥だらけになりながら、約2時間で稲刈りは完了しました。大勢で作業するとやはり早いものです。

最後に、海老原会長の講評があり、皆の感想も「楽しかったけど、けっこう疲れた」というものでした。やはり慣れない作業は大変だったようです。立沢里山の田んぼは湧水もあり、どうしても排水に限界があり、子供は足をとられて大変のようです。来年は少し排水の仕方も工夫してみましょ。

手足を洗い、着替えなどをして、皆元気に、大声でお礼をいって徒歩で学校まで帰って行きました。



全員集合



田んぼの学校
守谷市の大井沢、松前台、御所ヶ丘の3小学校の5年生約200人が14日、里山づくりに励んでいる地元のボランティア団体「立沢里山の会」（鈴木榮会長）の手ほどきで、稲刈りを体験した一写真。
同会は01年から、ゴミ捨て場と化していた2畝の休耕地を「自然観察園」として整備を始め、稲作には欠かせない水も江戸時代の技術「上総掘り」で確保した。今年5月、「田んぼの学校」で、共同作業の大切さを体験してほしいと、子どもたちに田植えを指導。この日は泥だらけになった児童が、刈った稲をガードレールにかけ干した。各学校では、収穫した米を飯ごうで炊いて味わう予定だ。

乾燥、脱穀して各学校に届けますので楽しみにしてください。



元気に運搬



足場の悪い所は手渡して

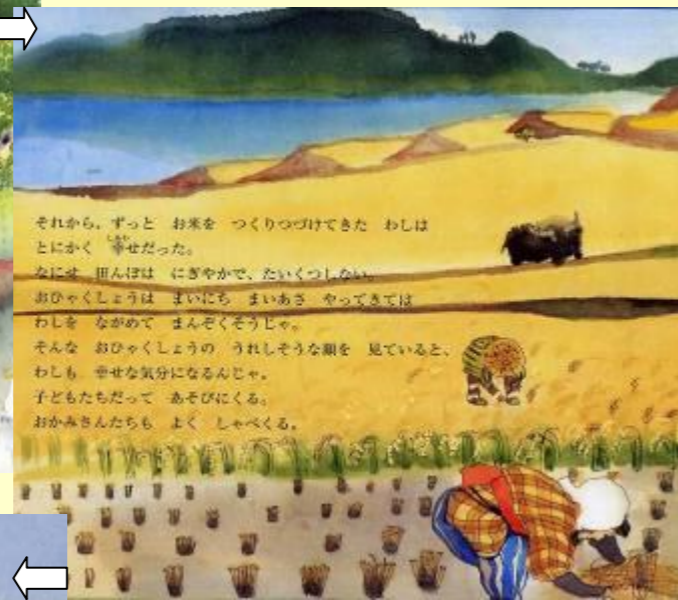
3 絵本「田んぼのきもち」

「田んぼの学校」を主催する農村環境整備センターが監修した絵本の中に、「田んぼのきもち」という一編が出版されており、何気なく読んでみました。

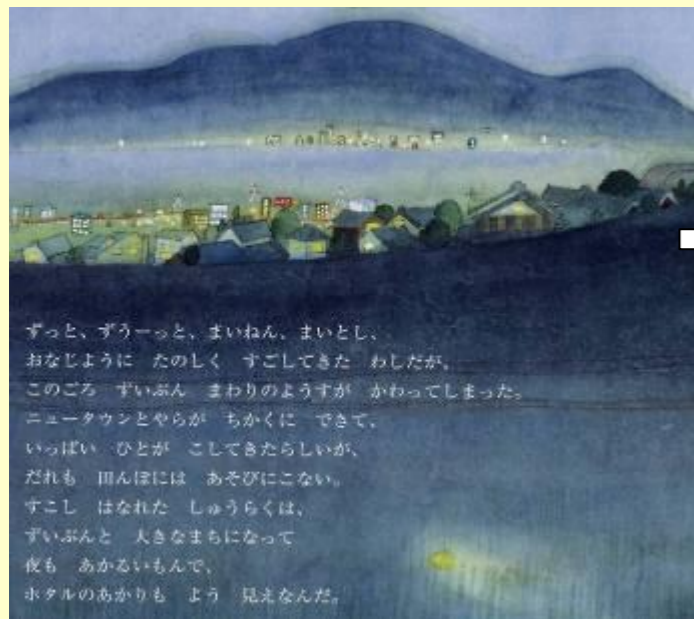
その中に「ニュータウンや田んぼの再生」のことも出てきて、あまりにも「立沢里山」の成り行きや取り組みと類似していることに感動してしまいましたので、抜粋を掲載します。



わしが 田んぼになってから どのくらいかって
 そうさなあ、もうあんまり 昔のことで 忘れてしまった。
 はじめに来たのは だれだったのかなあ。
 それはそれは 大変なろうをして、わしをつくらせてくれたんじゃ。
 なにしる、たくさんの 木がはえていたからな
 大地にはった根っこをひきぬくの、ひとくろうじゃった。



それから、ずっと お米を つくりつづけてきた わしは
 とにかく 幸せだった。
 なにし 田んぼは にぎやかで、たいくつしな
 おひやくしょうは まいにち まいあさ やって来ては
 わしを ながめて まんぞくそうじゃ。
 そんな おひやくしょうの うれしそうな顔を 見ていると、
 わしも 幸せな気分になるんじゃ。
 子どもたちだって あそびにくる。
 おかみさんたちも よく しゃべくる。

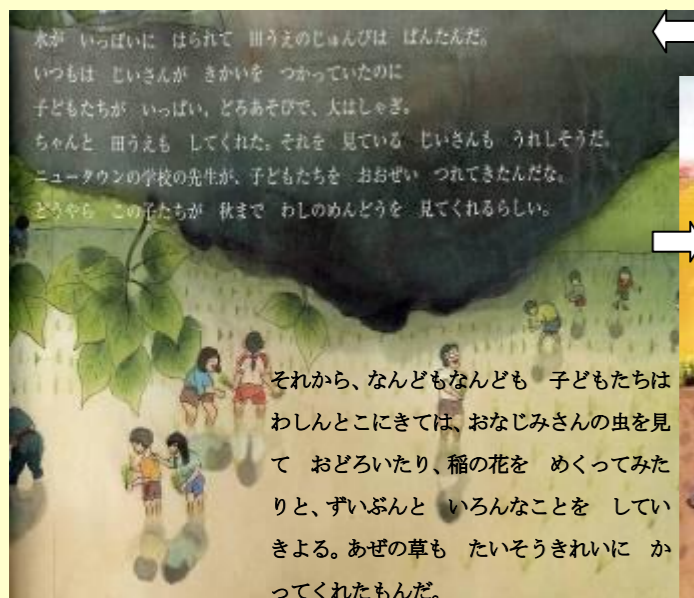


ずっと、ずうーっと、まいねん、まいとし、
 おなじように たのしく すごしてきた わしだが、
 このごろ ずいぶん まわりのようすが かわってしまった。
 ニュータウンとやらが ちかくに できて、
 いっぱい ひどが こしてきたらしいが、
 だれも 田んぼには あそびにこない。
 すこし はなれた しょうらくは、
 ずいぶんと 大きなまちになって
 夜も あかるいもんで、
 ホタルのあかりも よう 見えなんだ。



きがつけば、ぼつんぼつんと、田んぼが
 田んぼでなくなって 草ぼうぼう。なか
 まが ずいぶんと へってしまった。わ
 しんとこのじいさんも、もうくたびれて、
 米つくりを あきらめるらしい。だれも
 田んぼに水を入れてくれない。じいさん
 の子どもたちは みんなまちに はたら
 きに でてしまっ、だれも わしのせ
 わを してくれなんだ。

ずいぶんながく ねていたようだ。
 さわがしい音で 目が さめた。
 どうやら だれかが わしを もういちど、田んぼにしようとしているようだ。



水が いっぱい はられて 田んぼのじいさんは ほんたんだ。
 いつもは じいさんが きかいを つかっていたのに
 子どもたちが いっぱい、どろあそびで、大はしゃぎ。
 ちゃんと 田んぼも してくれた、それを見て じいさんも うれしそうだ。
 ニュータウンの学校の先生が、子どもたちを おおせい つれてきたんだ。
 どうやら この子どもたちが 秋まで わしのめんどろを 見てくれるらしい。

それから、なんどもなんども 子どもたちは
 わしんとこにきては、おなじみさんの虫を見
 て おどろいたり、稲の花を めくってみたり
 と、ずいぶんと いろんなことを してい
 きやる。あぜの草も たいそうきれいに かつ
 ってくれたもんだ。



子どもたちが そうで 稲のかりとり
 今年は ほうさくで よかった。
 秋の風が こころいいう。
 やっぱり 田んぼは、お米が 実ってこそ 田んぼ。

4 脱穀作業、今年の収量は

9月14日の稲刈り後は比較的天気にも恵まれ乾燥状態も良好なので、9月連休（シルバーウィーク）の最終日23日（水）に脱穀作業を行いました。

子供達が束ねた稲束なので、かなりの割合でバラバラにほどけてしまいます。体験農業では昔ながらの足踏み脱穀機を使うことがよくありますが、その場合は稲束をしっかり握って作業しなければならないのでたいへんなことになります。今回はコンバインで脱穀したので実に楽なものでした。

気になるのはどれくらいの収穫量になっているかということです。今年は比較的天候の生育は順調でしたが、中の田んぼの北側が相当の面積で色が変わり、見た目から判別できるほどキジヤスズメに食べられていました。

ま〜これくらいは「鳥の取り分」として許容範囲と考えていました。また実の入りがあったせいか、稲刈りや乾燥作業などで脱粒が多く、歩留まりが心配になってきました。予想としては例年より全体収量が少し悪いのではないかとこのところでした。

ところが籾擦りの結果、約280kg、9俵半と例年並みに立派な収量でした。各学校に配分するにも十分な収量を確保できて安心しました。



5 池の再生、ハス等の移植

春は「大賀ハス」の移植後にザリガニの被害にあったことから、8月に急遽捕獲作業を行い、何とか2株だけは順調に生育しています。9月の脱穀作業の合間にスイレンとキショウブを近隣から採取して池に移植しました。

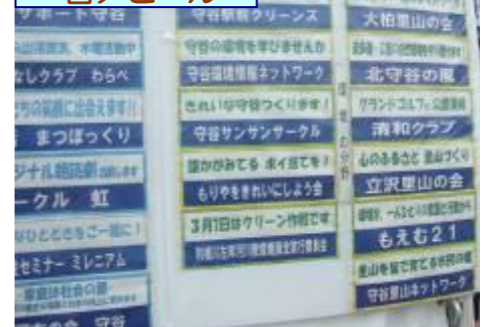
ザリガニ被害にあったスイレンやコウホネも少し根が出ていたので来年は成長するかもしれません。その後もアサザ、ミクリ、アギナシなどの湿地性の植物を試験的に移植してみました。来年が楽しみです。

10月8日の台風直後に現場へ行ってみましたが、一面が海のように水位があがり、何処が水路か川か池かもわからないくらいでしたが、水位が下がるとほとんど被害もないようで安心しました。

今年は池や畦もかなり強化していたので、むしろ里山田んぼが洪水調整機能を果たしていたようです。合流地点の看板が強風で倒れていましたが修復しました。



一言アピール



6 守谷駅前祭り「夢彩都」

8月末に開催されたT×駅前「きらめき夢彩都」に市民活動交流センターから「一言アピール」で各団体の紹介がありました。大野（スマイル）地区から焼きそばの出店、自然博物館の展示などもありました。

前号で捕獲した立沢里山のザリガニも出演する予定でしたが、当日まで待ちきれずに何処かへ逃亡してしまったようです。

子供のふれあい体験用に「どじょう」など高額な費用で確保したようですので、来年は全て地元里山で調達して協力することも考えましょう。

